

**Contents**

**2015.4**

- |           |  |   |
|-----------|--|---|
| <b>4</b>  | <b>スプレオニュース</b><br>Speleo News                                       | CJ 編集部<br>CJ Editorial Department                 |
| <b>7</b>  | <b>イベントカレンダー</b><br>Event calendar                                   | CJ 編集部<br>CJ Editorial Department                 |
| <b>8</b>  | <b>第一回アジア洞窟学会議および第二回アジアトランスカルスト会議のお知らせ</b>                           | 後藤 聡<br>GOTO, Satoshi                             |
| <b>10</b> | <b>立命館大学インドネシア共和国洞穴探検事前調査報告</b>                                      | 立命館大学探検部<br>Ritsumeikan University Explorers Club |
| <b>18</b> | <b>洞窟救助委員会 関西支部 スプレオ甲子園の報告</b>                                       | 森住貢一<br>MORIZUMI, Koichi                          |
| <b>24</b> | <b>小笠原諸島・西之島火山の溶岩流に溶岩チューブ洞窟は形成されているか？</b>                            | 本多 力<br>HONDA, Tsutomu                            |
| <b>28</b> | <b>米国・カスケード山系のセントヘレンズ火山とニューベリー火山の溶岩樹型</b>                            | 本多 力<br>HONDA, Tsutomu                            |
| <b>35</b> | <b>プロジェクトボード</b><br>Project Board of Caving Clubs                    | CJ 編集部<br>CJ Editorial Department                 |
| <b>40</b> | <b>編集部からのお知らせ</b><br>Information from the Editorial Department of CJ | CJ 編集部<br>CJ Editorial Department                 |

**Editor's Note**

アジア洞窟学連合の第1回会議が今年の11月、中国で開催されます。本号8ページよりその案内を載せていますので、ぜひ参加をご検討ください。本号でも、立命館大学によるインドネシア・スンバ島での調査報告が掲載されているように、欧米中心に発達してきたケイビング、洞窟学はアジア諸国へとも普及してきています。アジア洞窟学連合の発足を足がかりとして、アジアのケイパー・洞窟研究者間の交流が、さらなる発展を遂げることを期待しています。

ケイビングジャーナル編集長 長谷川 航